

INFORMATION

出願期間 9~11月の入試情報



自分に合った入試で合格へのチャンスを広げよう！

総合型選抜
Ⅲ期 /Ⅳ期
＜作品持参型＞

作品・制作物で受験！

作品・制作物・面接で評価する入試です。
制作過程で工夫したことや苦労したこと、
学習意欲や適性などを面接で確認します。

※2 学科まで併願可

総合型選抜
Ⅲ期 /Ⅳ期
＜資格取得型＞

資格・コンテスト受賞歴で受験！

あなたが取得した資格等を評価する入試です。
(本学が指定する資格・コンテスト等が条件)
また、資格等の取得状況に応じた、
特待生制度があります。 ※2 学科まで併願可

総合型選抜
Ⅳ期
＜科目選択型＞

得意科目で受験！

得意な科目を午前・午後から選択し、
最大2 科目受験ができる入試です。
成績優秀者を対象にした特待生制度があります。

※1 科目でも受験可
※2 学科まで併願可

オープンキャンパス情報

(開催日) 12/20 SUN 10:00-15:00

在学生交流オープンキャンパス

在学生交流会

在学生と直接話せる交流会です。授業
や入試、キャンパスライフなど、先輩
たちが何でも質問に答えします。リ
アルな大学生活を知って、自分の進路
を考えるヒントを見つけよう！

全体キャンパスツアー

広いキャンパスに広がる充実の施設設
備について大学内を巡りながらご案内
します。施設全体の雰囲気を感じなが
ら、どんな大学生活を送るのか、イメ
ジを膨らませよう！

その他充実のプログラムをご用意

- ☐ 体験デッサン芸工塾
- ☐ 学科別ガイダンス&ツアー
- ☐ 各種ガイダンス
- ☐ 各種相談コーナー
- ☐ 学生作品・入試作品展示

補助&減免制度もチェック！

オープンキャンパス来場者

交通費補助

対象地域にお住まいでオープンキャンパスに
来場いただいた高校生ご本人に
交通費の一部を QUO カードで支給いたします。

オープンキャンパス前日 or 当日

無料宿泊体験

本学が提携している UniLife の学生マンションの
体験宿泊を行っています。オープンキャンパスの
前日もしくは当日に体験宿泊サービスを利用
できますので、保護者や友達と一緒に
ぜひご利用ください！

12/20 のオープンキャンパスは
11/20 受付 START!



オープンキャンパスの
詳細・お申し込みは
こちらから！
kobe-du.ac.jp/event/



INFORMATION

9月号表紙の作品情報



title : SLICE of PP -upcycle product series-

生産・工芸デザイン学科

榎原浩貴さん

本研究では、樹脂の調色を行うメーカーの製造工程で排出される廃棄
ポリプロピレン(PP) 樹脂に着目し、産業副産物の新たな活用可能性を
探りました。射出成形工程で発生するダング状の端材を再資源化し、そ
の断面に現れる積層構造や色の混ざりを意匠として可視化しています。
廃材が持つ偶然性や素材の履歴をそのまま生かすことで、背景にあるス
トーリーを内包した造形を実現しました。これまで一般にはあまり知ら
れてこなかった副産物の存在を紹介するとともに、その新たな価値を提
案する取り組みです。

芸工塾～12月の予定

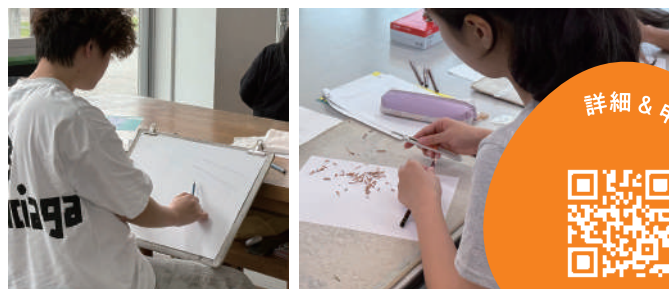
オープンキャンパス同日開催 体験デッサン芸工塾

(開催日) 12/20 SUN 9:45-12:30

☐ 入門講座 or ☐ レベルアップ講座

「芸工塾」は、デッサン力を高めて表現力を身につける、
無料の実技講習会です。入門講座とレベルアップ講座が
選べるので、初めての方も経験者の方もレベルに合わせ
てお選びください。

申込は 11/20 START



詳細 & 申し込み
QRコード

SNSで最新情報発信中！

イベント情報や
各種コンテンツを
チェックしよう！



@kobe_du_pr



@kobedu



@kobe_du



@kobe_du

お詫びと訂正

広報誌4月号および7月号の表紙に記載した大学名に誤りがございました。
正しくは「KOBEDU DESIGN UNIVERSITY」です。ここに訂正し、謹んでお詫び申し上げます。

+ + 神戸芸術工科大学
+ + KOBEDU DESIGN UNIVERSITY



〒651-2196 神戸市西区学園西町 8-1-1
フリーダイヤル: 0120-514-103 (平日 9:00-17:30 / 土 9:00-17:00)
TEL: 078-794-5039 (広報入試課直通) www.kobe-du.ac.jp

特集

ドイツ・ミュンヘン出展レポート

- 出願期間 9月~11月の入試情報
- オープンキャンパス情報
- 芸工塾情報

KOBE DESIGN UNIVERSITY

神戸芸術工科大学が
お届けする
シーズンレター

09

2026.Sep.

特集 ジュエリーでひらいた、世界への扉

生産・工芸デザイン学科のクラフトコースで
ジュエリー制作を学ぶ13人の有志が、
ドイツ・ミュンヘンで作品を展示。
そこでの学びや挑戦について伺いました！

13人で挑んだ ドイツ2カ所での展示 「HARE」と「ICON.」

ードイツで展示することになった経緯を教えてください。

三島先生：私も含め、本学でジュエリー教育に関わる教員は、ミュンヘンをはじめ海外でも活動しているので、機会を見つけては現地で学生たちの作品を紹介してきました。
そんななか、2024年度のコンテンツラリー・ジュエリーの祭典「ミュンヘン・ジュエリーウィーク」にて、会場のひとつであるピナコテーク近代美術館で展示ができる1校の枠に選ばれたこと。また、2025年9月にも市内のギャラリースペースからお声がけいただき、展示を行ったこと。それらの実績を通じて実力を評価されたことで、今回、2026年度の「ミュンヘン・ジュエリーウィーク」では、ピナコテーク近代美術館の創立記念とも絡めた大規模な記念式典での展示枠に、世界24か国・約40校のうちの1校として選出されました。さらに、市内のギャラリースペースからもお声がけいただいたため、同じタイミングで数日間の展示を行うことになりました。

ーどのような展示内容でしたか？

村上：ピナコテーク近代美術館の展示では、「HARE（ハレ）」というテーマを設定。全員が着物を着て、手に持ったお膳の上のせて作品を展示するというパフォーマンス性も重視しました*1。作品を挟んで来場客の方々と対面でお話することになるので、コミュニケーションも取りやすかったです。

赤坂：日本っぽさが受けて、会話も弾みましたね。皆さん、お膳にも興味津々でした。僕は平和の象徴である日本の千羽鶴とインディアンモチーフのフェザーを掛け合わせたネックレス*2を展示していたのですが、「想いの循環を意識し、心臓の部分にシルバーが来るようにつくった」などと作品の説明をすると、「コンセプトがロマンチックだね！」「全部手彫りだなってすごい！」と、海外の方々から直接感想を聞くことができてうれしかったです。

村上：私は水面をモチーフにしたブローチ*3を展示したのですが、あるマダムが2点お買い上げくださり、「あなたは自信を持っていい！」と言ってくれたことが印象的でした。



*2

*3

言葉も満足に通じないなか、自分のことを知らない方々が、純粋に作品だけの魅力を評価してくださること。自分たちで企画して、展示して、作品がひとに届く瞬間を体験できたことに感動しました。
赤坂：僕もギャラリー展示の方で、はじめ作品が購入される現場に立ち会うことが

できました。こちらの展示では、前回に引き続き「ICON」をテーマにして、それぞれの作品をアイコン化してコースター型の作品紹介カードをつくるなどの試みをしていて。*4僕はここでは、インディアンモチーフと日本の昔話を掛け合わせたシルバーアクセサリーを展示していました。実は前回の展示でひとつ作品をご購入いただけんですが、そのときは立ち会えていなかったんです。今回はじめて自分の手からお渡しすることができて、本当に感激しました。大学、日本という限られたコミュニティのなかでの評価とは違い、「世界にも自分のジュエリーを欲しいと思ってくれる人がいる」という事実が大きな自信につながりました。

村上：このギャラリーはガラス張りだったのですが、外から作品を覗いて入ってきてくださる方もいて。作品の魅力だけで人とかかわりが生まれる。そんな作品の力を実感できたことも、貴重な経験でしたね。

赤坂：本当に、「行けば世界が変わるよ」と事前に先生に言われていた通り、大きな刺激を受けて帰ってきました。美術館で世界各国の学校の作品を観ることで、作品のよさをいかに強く伝えるかという表現力やコンセプトメイキングに関しても、学ぶことが数多くありました。

村上：私は今回のドイツでの経験を経て、ものづくりとそれを誰かに届けるということの魅力に取りつかれたように思います（笑）。そして、つくるだけでなく、「誰かに届けるために発表する場をつくること」の大切さも実感しましたね。

渡航費援助のため 学生主導で挑戦した クラウドファンディング

ークラウドファンディングは学内初の試みだったとか。

村上：そうなんです。昨年9月にドイツに行ったばかりで金銭的に厳しい学生も多くなるだろうと思ったのと同時に、クラウドファンディングで呼びかけることが私たちの活動の宣伝にもなるのでは……とも考え、挑戦することに決めました。自分自身だけでなく、大学としてもはじめての試みだったので、何から進めて、どこまでやればいいのかなど分からないことだらけでした。でも、先生を含めてたくさんの人に助けていただくことで、なんとか進めることができました。達成の鍵となるリターン品には、先生方の作品を使わせていただいたんですよ。

三島先生：少しでも助けになればと協力しました。私が副会長を務める日本ジュエリーデザイナー協会にも呼び掛けたのですが、みなさま快く応援してくれましたね。

村上：でも最終日まで達成の兆しが見えなくて……、すでに次の一手を考えはじめていたんです。そうしたら締め切り30分前から達成率がグッと伸びて、10分前が一番高額なリターン品を購入してくださった方がいたことで、無事目標額を達成することができました！

赤坂：日付が変わって達成が分かったとき、みんなで連絡を取り合いながら大喜びしたのも、いい思い出です（笑）。大学側からの補助もあったため、結果的に渡航費の多くをカバーしていただくことができました。

「作品の持つ力」を実感できた、 かけがえのない経験

神戸芸工大で 意欲的な学生が育つ理由

ー神戸芸工大の学生が伸びる理由は？

三島先生：まず、人数が多すぎないので教員が一人ひとりの学生と真剣に向き合えること。そして、教員自身も作家として活動しているので、同じ作家同士であるという意識のもと、お互いに刺激し合いながら学びを深めていける環境があるということも、大きな理由だと思います。

村上：第一線で活躍されている先生方から、現場や海外でのリアルなお話を伺う機会も多いので、視野も広がります。

赤坂：素晴らしい実績を持つ先生方ですが、話しやすいので気軽に質問ができるんですよ。ほかの学生の作品や、国内外の公募に挑戦する姿を見て刺激を受けることも多いです。

村上：私は今度、ファッション・テキスタイルコースの友人と一緒に合同展示会を予定していますが、そういうコラボもしやすいですね。工房を授業以外でも長時間自由に使えることも、ありがたい特長だと思います。

ー将来の夢はありますか？

赤坂：将来は何らかの形で教育に携わりたいですね。小さいお子さんやハンデキャップのある子も取り組みやすいアートの特徴を活かして、コミュニケーションや学びにつなげられたいと思っています。

村上：私は今回、展示のテーマ設定やクラウドファンディングに関わったこと、現地の展示会で体験したことを通して、ものづくりだけでなく「ことづくり」もしていきたいと考えようになりました。いま自分にできることに精一杯取り組みながら、どう社会に繋がっていけるのか、考えていきたいです。

三島 一能 准教授
生産・工芸デザイン学科

公益財団法人日本ジュエリーデザイナー協会 副会長。彫金、ジュエリー、立体造形、ミクストメディアを専門とする。

News

ジュエリー＆ メタル制作工房が 移転リニューアル！

天井が高く広々とした新工房。ジュエリー制作専用の工房なので、「金づちの音や金属を切る音がうるさくないかな……」と気兼ねすることなく、思いっきり制作に打ち込むことができます。



*1



赤坂 朋哉さん

生産・工芸デザイン学科
クラフトコース（旧：アート・クラフト学科）
4年

教職を目指し入学。インディアンモチーフ×日本文化をテーマとした作品づくりに取り組む。

村上愛さん

生産・工芸デザイン学科
クラフトコース（旧：アート・クラフト学科）
4年

伝統工芸を取り入れた作品づくりを行う。展示会の企画やコンセプトづくりなどに積極的。